

中国の高速鉄道の危険性

フィナンシャルタイムズ 2010年9月28日

ミュア・ディッキイ

中国では最近、高速鉄道が自国の技術で建設されたことを誇る 1 万 5 千字に及ぶ報告書が出版された。

これを読めば、中国の技術のあり方、外国が中国に如何に付き合うべきかがわかる。

これによると、中国は他国が 40 年かけて開発した高速鉄道技術をわずか 5 年でものにしたと自慢している。

2004 年、海外の鉄道関連会社は中国での自国の技術を売り込むことに期待をかけた。しかし中国は海外のメーカーを競争させて、技術を取り入れ、今や米国の高速鉄道にまで売り込むほどになった。

ドイツのシーメンス、日本の川崎重工、フランスのアルストムなどは、競争を強いられ、技術を中国に売り渡さざるを得なかった。

しかしこうしたやり方は、問題を生じる。海外のメーカーは中国は自国で海外の技術を物にしたとしているのは問題で、技術を盗んだとしている。

中国で訴訟をするほどではないとしても、海外に輸出するとなれば技術で訴訟の対象となるだろう。

他国が 40 年の年月を要して開発、維持した鉄道の運行技術は 5 年で習得できるものではない。安全上の問題がのこる。

中国の時速 380 キロを誇る車両は、日本の新幹線にそっくりである。

ドイツでは 1998 年に高速鉄道で大事故が起きている。

中国の鉄道が海外の技術を寄せ集めて成功しても、安全上の問題が残る。

中山 隆